

シリーズ2、庭木に利用する樹種の特徴と管理 (7) —アメリカザイフリボク—

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村 正史

春には花を、6月には実を、秋には紅葉を楽しむことができるというすぐれものの樹木があります。この樹木はバラ科ザイフリボク属の落葉高木で、名前をアメリカザイフリボクといいます。原産地は北アメリカです。

1. 特徴

この樹木の花には白い細長い5枚の花弁があり、この花が枝先に密集して咲きます(写真-1)。その時期はソメイヨシノの花が散る頃で、白くて非常にきれいです(写真-2)。花の期間は10日間程度ですが、花が終わると実が成長し始めます。実はバラの実に似ており、6月には1cm程度の大きさの濃赤紫色の実になります(写真-3)。この実は、甘く食用となり、そのまま食べてもおいしいです。ジャムなどに加工してもおいしく食べられますし、果実酒の材料にもなります。アメリカでは6月に実が収穫できることから別名をジューンベリーといいます。秋になると、鮮やかに紅葉し、非常にきれいです。

このように年3回も楽しむことができ、樹高は5~10mでそんなに大きくなく、冬の寒さにも夏の暑さにも湿地にも強く、しかも病虫害の発生が少ないという特徴も備えています。そのため、最近では洋風の庭のシンボルツリーとして人気があるようです。

日本にも同じ仲間、本州、四国、九州の山間部に自生しているザイフリボク(別名、シデザクラ)という樹木があり、庭木として植栽されています。実は秋に成熟しますが、渋いので食用にはしませんが、果実酒の材料になります。



写真-1 花(左図:枝先に密集して咲く状況、右図:一輪の花の拡大、2011.4.18撮影)

2. 維持管理

管理は自然の樹形で育てることを基本としますが、秋から冬にかけて枯れた枝や細い枝を剪定する程度のことを行います。ただし、花芽は前年に伸びた枝に着くことから、強い剪定をすると花や実の量が減ってしまうので、注意しましょう。12月には元肥として緩効性有機質肥料を株元から少し離れた場所に施しましょう。4月には実肥として緩効性の化成肥料を、収穫後の7月にお礼肥として速効性の化成肥料を施しましょう。病虫害の発生は少ないのですが、カイガラムシ、アブラムシ、カミキリムシが発生する場合がありますので、注意しましょう。

なお、掲載した写真はすべて富山県中央植物園で撮影したものです。



写真-2 満開(左右の樹木、2011.4.18撮影)



写真-3 成熟した実(2012.6.7撮影)